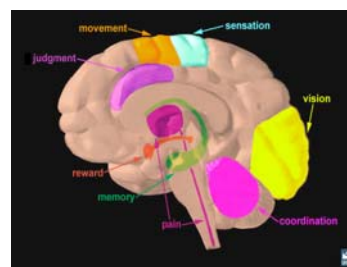


薬理学研究室



薬理学とは薬物の作用発現メカニズムの探究を通して、疾病の予防薬および治療薬の開発を行う学問である。

我々は**中枢神経系**、すなわち、**脳**に関連した疾患(**精神疾患**)に焦点を置き、その発症メカニズム解明および予防薬や治療薬の開発に向けた研究を行っている。



主な研究方法

① 行動薬理学的アプローチ:

記憶、不安および薬物依存に基づくと考えられる実験動物の**行動**を指標とする研究方法。精神疾患の発症メカニズム解明を通して脳機能を明らかにし、新たな精神疾患動物モデル(動物患者)を確立することも我々の重要な課題の一つである。



② 神経化学的アプローチ:

精神疾患患者で異常値が見られる神経伝達物質のレベルを指標とする研究方法。行動薬理学的アプローチの裏づけとして極めて重要な意味を持っている。



主な研究内容

① 学習／知的機能障害のメカニズム解明

アルツハイマー病を含む多くの精神疾患では、その発症初期より日常生活に必要な短期的な記憶である**作業記憶**(例えば、電話番号を覚えて電話をかけるのに必要な一時的な記憶)が障害される。我々は、この作業記憶障害のメカニズムおよびその予防薬や治療薬の開発に向けた研究を行っている。

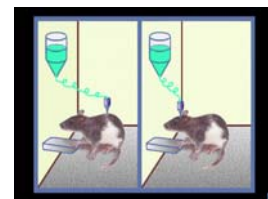
② 脳内“大麻様物質”の機能解明

我々の脳内には、大麻の主成分カンナビノイドに類似する成分がある。我々は、**脳内カンナビノイド**が薬物への**渴望 (craving)**に如何なる役割を演じているかを解明するために研究を行っている。



③ 精神疾患動物モデルの作成と創薬への応用

アルツハイマー病、統合失調症、薬物依存症及び不安神経症などの精神疾患は増加傾向にあり、それらの予防薬および治療薬の開発が切に望まれている。我々は、それらの動物モデルの作成および予防薬や治療薬開発を目的とした研究を行っている。



④ 脳機能に対する“食物”の影響の解析

食品由来成分が健康食品として広く愛用されている。しかしながら、それらには科学的な検証が不十分なものが多く、健康**被害**の報告が後を絶たない。我々はこのような社会的背景を考慮し、薬理学的方法による食品由来成分の機能性評価を行っている。

最近の話

① Collegium of International Neuropsychopharmacologicum Asia Pacific Regional Meeting, poster presentation award, **Hiranita T.**, (March, 2006)

② 第28回日本生物学的精神医学会／第36回日本神経精神薬理学会／第49回日本神経化学会大会 合同年会優秀演題賞受賞 **縄田陽子**(2006年9月)

